

エストニアの作曲家ウルマス・シサスクが12月17日に62歳で帰らぬ人となった。幼い頃から星の世界に興味を持ち、言葉を話すより前に天体望遠鏡を操作し宇宙と会話をしてきたという。組曲「エイヴェレの星たち」第2曲の無限の彼方まで響きゆく音で彼を偲びたい。

モーツァルトの曲はあまり弾いたことがないが、安川加壽子先生を偲んで門下生がモーツァルト・プログラムを組んだ時に「女ほど素敵なものはない」を弾かせて頂いた。30年ほど前のことだろうか。モーツァルトの没年に書かれた作品で、演奏されることはあまり無いらしい。光永浩一郎に左手用に編曲してもらった。脳溢血で倒れ左手のピアニストになってからモーツァルトを弾くのは今回が初めてである。バッハ(ブラムス編)のシャコンヌはステージで演奏した初めてのバッハであるが、この20年間に700回ほど演奏した。それでも飽きることなどないどころか、一回一回が常に新しい。モーツァルトもそうってくれるだろうか。それとも厳しく撥ねつけられるだろうか。「女ほど怖いものはない」。87歳の挑戦である。

マグヌソンにはピアノ・ソナタがふたつある。どちらも左手の作品であり、最初のソナタは15年ほど前の作品であろうか。30分近くかかり、ラヴェルの左手のための協奏曲のカデンツを想起させるような長大なパッセージもある。東京、大阪、札幌、福岡他で10回ほど演奏したが、そこでひと休みをした。奇怪な姿をしてるけど、不思議と美しい部分もたくさんある。あまりに難曲だから20年ぐらい休ませておいて、それからまた弾こうと思った。2番目のソナタは今年の初頭に完成した。どちらのソナタにも1番2番といった番号はついていない。新しいソナタは前作と違い恐ろしく無愛想である。アイスランドの風景のように樹もないし緑もない。馴れ馴れしい和声の流れを拒否したような響きの中に、でも不思議な泉が地から噴出してくる。これもまさにアイスランドの風景。間欠泉である。マグヌソンはよく喰べウオッカでもグラッパでも焼酎でもなんでも飲み毎日20キロは走っている。彼の一番の趣味はサヴォテンの観賞。可愛いらしくて面白くて興味が尽きないらしい。今度のソナタもなんだかサヴォテンのように見えてくる。

「鬼の学校」は昨年東京、南相馬、名古屋で開校したが破竹の勢いは止まらず今年は札幌、福岡、大阪にも分校が出来、秋には京都、豊田、小海、そして最後にまた東京オペラシティに新校舎が出来。校長の酒呑童子と4匹の小鬼達は昼も寝ず夜も寝ず昼夜兼行で鬼が鬼らしく純粹な生を全うするためには何が必要かを学習している。鬼は近年人間と仲良くなりすぎて原初の力を失いつつあるのではないか。シューベルトの名作「鱒」と同じ編成で繰り広げられる鬼達の活躍に刮目してほしい!

館野 泉

出演者プロフィール

■ 館野 泉 Izumi Tateno: Piano

クラシック界のレジェンド。2023年、数え年で88歳(米寿)を迎える。領域に捉われず、分野にこだわらず、常に新鮮な視点で演奏芸術の可能性を広げ不動の地位を築く。2002年に脳溢血で倒れ右半身不随となるも、しなやかにその運命を受けとめ、「左手のピアニスト」として活動を再開。「館野泉の左手のために」、10ヶ国の作曲家により100をこえる作品が献呈される。公式HP <https://www.izumi-tateno.com/>

■ ヤンネ館野 Janne Tateno: Violin

フィンランド・ヘルシンキ生まれ。シルッカ・クーラ、オルガ・バルホメンコ、森悠子の各氏に師事。11年、22年東京文化会館にてリサイタルを行う。ソリストとして15年ヘルシンキにてW.ケンプのヴァイオリンコンチェルトを演奏、またモーツァルトコンチェルト、シベリウスコンチェルトを山形交響楽団と共演。現在ヘルシンキを拠点とするラ・テンペスタ室内管弦楽団のコンサートマスター、音楽監督を務める他、山形交響楽団第2ヴァイオリン首席奏者、森悠子主宰長岡京室内アンサンブルのメンバーとしても活動する他、バロックヴァイオリン演奏、アルゼンチンタンゴ演奏、コンサートのプロデュースをするなど幅広い活動を展開。公式HP jannetatenocom.com

「どんな『鬼の学校』に行かされるのか?期待と不安を感じている生徒のような気分です。これまで平野作品には何度か挑戦しています。父や共演者の皆さんと共に新しい音楽を誕生させることは大きな喜びです。」



■ 安達真理 Mari Adachi: Viola

日本フィルハーモニー交響楽団ヴァイオリン客演首席奏者。精力的にヴァイオリン・リサイタルを開催するなど、ソリスト、室内楽奏者としても幅広く活動している。録音作品では『Winterreise』『J.S.バッハ 組曲&パルティータ』『MY DEAR』をリリースしている。これまでに、インスブルック交響楽団にて副首席奏者を務め、パーヴォ・ヤルヴィ氏率いるエストニア・フェスティバル管弦楽団にも参加している。

「お会いする度に、先生のお優しさ、ユーモア、可愛らしさに触れて、幸せな気持ちにさせていただいております。そして、先生から生み出されるパワフルな音楽にいつも圧倒されます。これからもご一緒させていただけるのを楽しみにしております!」



■ 矢口里菜子 Rinako Yaguchi: Cello

東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校、同大学を経て、ドレスデン音楽大学にて研鑽を積む。第10回ピバホールチェロコンクール第1位。第31回霧島国際音楽祭賞。ソリストとしてザクセン州立警察オーケストラなどと共演。現在山形交響楽団首席チェロ奏者。異なる楽団のトッププレイヤーから成る弦楽四重奏団「The 4 Players Tokyo」として、BSテレビ東京「エンター・ザ・ミュージック」に定期的に出演している。

「館野先生とは、山形で初共演させていただきました。ピアノの音を超えた、壮大な宇宙を見たような感覚は忘れられません。再び共演させていただけることが心から嬉しく、待ち遠しいです。今回の平野一郎氏の「鬼の学校」では、館野先生の作り出される世界で、若き「鬼」の一匹としてどう生きることになるか、楽しみです。」



■ 長谷川順子 Junko Hasegawa: Contrabass

相愛大学卒業。同研究科修了。アメリカルーズヴェルト大学シカゴ芸術学院に留学。フィンランドの室内管弦楽団ラ・テンペスタのメンバーとして、2005、2007年オウルンサロ音楽祭、2005年日本ツアーに参加。長岡京室内アンサンブル、関西室内楽協会大阪チェンバーオーケストラ、いずみシンフォニエッタ大阪、神戸市室内管弦楽団、他、オーケストラリベラクラシカ、バッハ・コレギウム・ジャパンに参加。また、古楽から現代音楽、タンゴなど様々な活動を広げている。

「館野泉さんのピアノの響きは、聴くもの全てをその振動で包み込み、心の中の世界を広げてくれます。」



館野泉米寿記念演奏会 2023

- 4/30(日) 札幌 札幌コンサートホール(小)
- 5/28(日) 福岡 FFGホール
- 6/12(月) 大阪 あいおいニッセイ同和損保 ザ・フェニックスホール ほか

次のことあらかじめご承知の上、チケットをお求めください。

やむを得ない事情により、曲目等が変更になる場合がございます。公演中止を除き、お買い求めいただきましたチケットのキャンセル・変更等はできません。ご入場には一人1枚チケットが必要です。また、未就学児の入場はご遠慮ください。場内での写真撮影・録音・録画・携帯電話等の使用は、固くお断りいたします。ネットオークションなどによるチケットの転売は、トラブルの原因になりますのでお断りいたします。